

## 学 校 長 式 辞

「古城の門」の桜が例年になく早く咲きました。満開の桜を見上げるたび、春の訪れを実感する季節となりました。

本日は4年ぶりに本校ゆかりのご来賓の皆様のご臨席を賜り、また、今日のこの佳き日を心から喜んでいらっしゃる保護者の皆様のご同席を得て、入学式を挙行できますことを、新入生とともに職員一同、厚く御礼申し上げます。マスクなどのご協力につきましても感謝申し上げます。

さて、只今入学を許可いたしました、全日制320名、定時制25名の新入生のみなさん、本校へのご入学、おめでとうございます。保護者の皆様、お子様の御入学を心からお祝い申し上げます。

上田高校は、変則中学校・中学校支校等を経て、明治33年、西暦1900年に長野県上田中学校となって以来、今年124期の新入生となる皆さんを迎えた、歴史と伝統に輝く高等学校です。

さらに、本校は、平成27年から文部科学省のスーパー・グローバル・ハイスクール、令和2年からは信州WWLコンソーシアムの拠点校の指定を受け、探究的な学び、国際的な学びを推進してまいりました。長野県をリードする、先進的な教育を行っている高校としても知られているところです。

また、定時制は県内でも最大級の生徒数を擁していますが、一人一人の生徒の希望により沿う、丁寧できめ細やかな指導で東信地域に広く定評のあるところです。

さて、そのような本校に入学してきた新入生のみなさんに高校生活を始めるにあたって考えてほしいことがあります。

先日、劇作家三谷幸喜氏作・演出の「笑いの大学」というお芝居を観劇しました。四半世紀ぶりに再演されたというその舞台は、戦時下であっても喜劇すなわち笑いを人々に届けようとする若い喜劇作家と劇中に現れる西洋の文化や人々の戦意をそぐような表現を排除できなければ上演許可は出さないと迫る厳しい検閲官の攻防を描いたものでした。「ロミオとジュリエット」を下敷きにしたはずの芝居はいつのまにか設定が日本に置き換わり、名前も「貫一とお宮」に代わり、神父様は僧侶になります。劇作家は妥協に妥協を重ね、劇団員に「お前にプライドはないのか」と糾弾されても、注文に沿うように、そして実はさらに面白くなるように劇を修正し続けます。

劇作家の姿から、私は「矜持」という言葉を思いました。みなさんは、「矜持」という言葉を知っているでしょうか。難しい言葉ですね。今日このお話を新入生の皆さんにするにあたって、改めて辞書を引いてみました。辞書によると「自分の能力をすぐれたものとしていただく誇り。自負。プライド」とあります。滅茶苦茶な検閲官の注文に、原型をとどめなくなるほどの修正をしなければならなかったとしても、検閲を通して劇を上演し、観客にひと時の笑いを届けることがその劇作家の矜持なのです。もちろん、これは三谷氏の創作でその劇作家が実在したわけではないのですが、その姿にまた、喜劇作家の三谷幸喜氏の姿と矜持も重なってくるのです。

みなさんの矜持は何ですか？高校に入学したばかりで、そのような問いに答えられる人はいないでしょう。ですが、その問いを常に心の中に持ち続けて、自分に問いかけ続けてほしいのです。皆さんは高校3年間、あるいは4年間で様々なことを学び、様々な人と出会い、様々な経験をします。与えられたものをただこなし、ただ漫然と過ごすのではなく、ひとつひとつの学問や人や経験との出会いを大切にしたいと思います。新しい友人を心から大切にし、あらゆることに興味を持っ

て向き合い、自分の頭でよく考えて理解する。それを積み重ねることで、あなたが一生関わっていきたくて思うことが見つかっていくことでしょう。そして、それが、将来あなたの「矜持」につながっていくのです。自分はなにものなのか、何を矜持として生きるのか、この問いを時折、自分に問いかけながら、ただひとすじに高校生活を充実させてほしいと願うばかりです。

保護者の皆様、本日はまことにありがとうございます。

今日のお子様の様子を見て、ほんの少し前まで赤ちゃんだったのに、今やどこかたくましくなっていて、やはり高校生らしくなったと感じておられるのではないかと思います。これからの三年間ないし四年間の生活の、今日は出発点にあたります。上田高校は全力で生徒一人一人に向き合ってサポートしてまいります。学校は常に情報をしっかり発信し、保護者・地域の皆様のご意見をよく伺いながら教育を進めていく必要があるとも考えています。ご協力をお願い申し上げます。

最後に、本日入学した生徒諸君の高校生活が充実したものになるよう重ねて祈念し、合わせてご臨席の皆様へ篤く御礼申し上げ、式辞といたします。

令和五年四月七日

長野県上田高等学校長 宮下 美和